ぱない物語

Presented by
RoriE-Go
In2013 WINTER

『お兄ちゃんお兄ちゃん
ねぇねぇーっ。聞いた聞いたー？』
朝食を終えリビングでくつろぐボクに
今日も今日とて、ちっちゃい妹が構ってと
言わんばかりにまとわりついてきた。

『なんだよいったい。
またアレか。
おまえらファイヤーシスターズの
月例活動報告と言う名の自慢話か？
それとも武勇伝と言う名の暴力行為の自供か。
どちらにしても僕は、そんな時間の浪費に
つきあう気はさらさら無いぞ。』

『ちがうよ。もーっ。
あのさ。
出るんだって。』

『出るって何が。』
コレーっと両手首をだらんと下げて突き出す
ちっちゃい方の妹。
ちょっとかわいい。

ページの都合からボケたい気持ちを必死に押さえて
答えるが
『幽霊・・か？』

『あったりー！
いいねいいねぇ。サクサク話が進んでいいねぇ。』

『幽霊ってどんな幽霊だよ。』

『それがねえーなんとっ
超絶かわいい金髪ロリなんだっって！』

『・・・・・・・・・・ほほう。金髪ロリ。』

僕のアホ毛がピクっと反応した。
『なるほど。喜べ。
お兄ちゃんが可愛い妹の与太話につきあってやる
気になったぞ。
とりあえず、５Ｗ１Ｈに従って情報開示を願おうか。』

『それがねーここ数日の話なんだけど
深夜のミスドに、その超絶金髪ロリっ子が
出没するんだって。』

『・・・・・・・ほうほう。深夜。
つまり日の出てない時間帯にミスド。
あの甘いカラフルな輪っかを多数陳列販売でお馴染みの。
深夜営業対応の人気チェーンで。
店舗にその金髪ロリが出没すると。
なーるーほーどーねー・・・・・・・』

『どしたのお兄ちゃん？』

『いーやーべーつーにー』

そういうボクは足下の影を
少し強めに何度も蹴っていた。

では娘
このゴールデン
チョコレートと
ポンデリングを頼む。
あ、それと
アイスティーを所望じゃ。

はっはい
ではご注文は
以上でよろしい
で…

あ、いや待て。

ポンデリングは
取り消しじゃ
代わりに期間限定の
ポンデ・ライオン
もなかアイスに
チェンジで頼む。

はっはい
かしこまりました。

ねぇーっ
ちょっと見たぁ!?
あの娘っ!!

超絶ヤバく
ないー!?

肌なんかもう
雪みたいに
真っ白っ!!

ブロンドの髪も
マジ金色よ。
輝いてたっ!!

お人形さん
みたいって
あーいうのよ
ほんっとに。

ブホッ

!!!

ただなんか
言葉遣いは
ちょっと…

うん、
なんかちょっと
時代劇っぽ
かったね

うん…なんかちょっと…
時代劇っぽいっていうか…お爺ちゃんかお婆ちゃんぽかったね
ぱない物語
冴樹高雄

お…お嬢ちゃん一人かい？こんな時間に…

見ての通りじゃ。おぬしの目には儂の横に誰かおるように見えるのか？

あ…いやその…

それに『こんな時間』とは申すが儂にとって今の時間は昼と同じじゃ

お主の勝手な常識で物事を計りそれを押しつけてくるのは甚だ迷惑じゃな

い…いやでも、危ないよ。

子供が独りでこんな時間出歩くのは…

危ない…か

それはアレか

お主のようなロリコンがウヨウヨしておるからか？

ん？

!!

ななな何を言って…

バレバレじゃよお主のような人種はニオイで解るわ。

上手く誤魔化せてると思っておるのは本人達だけじゃ覚えておくがよいわ。

あ…えーっとミスド好きなの…？
うむ。この世の楽園じゃなここは。
できようものならここに住みたいと思うておる。
そ…そうなんだ。
ねぇ何かまだ食べたいドーナツある？
奢ってあげようか？
……
今なんと申した…？
奢る…というのは何か…
儂が手持ちの無さから諦めたポンデリング
あ…いやその…
並びにできようことならと切望しておったフレンチクルーラーオールドファッションの代金を肩代わりしてもよいと。
そう申しておるワケか？
なるほどのう…
お前…
いいヤツじゃなっ♡
……

♡
そう…忍ちゃんっていうんだー
我が主様って…えーと保護者さん…かな？
お小遣いもあまりくれないってことかー
大変だねーでもよかったらドーナツくらい
お兄ちゃんがいつでも奢ってあげるからね
……
美味しいかい？
んー最高じゃな
奢って貰うドーナツ程美味なものはないのー
あっ…
ほっぺ…ついてるよ…

しっ…
忍ちゃん…
ちょっと
だけじっと
してて
ね…
サワ
スッ
!?

しっ…
忍ちゃん…
パンツ
はいてないの!?
じ…
カサ…

あーアレか。
どうも窮屈で
いかんからな
ん…
絆創膏(コレ)で
済ましとる。
十分じゃろ?
!!
かぱっ

まったく…
人間のオスと
いうのは性欲に
馬鹿正直
じゃな…

クシュ…

そうそう
そのまま
足開いてて

も…
もうちょっと
良く見せて

こ…
こんなの
貼ってたら

か…かぶれ
ちゃうから
はがしたげる
から…

ピリッ

……
ん…

そのまま
じっとしてて

まあ…
たまには
情事にふけるのも
悪くはないかの

いい子
だからね…

舐めて
きれいにして
あげるから

……

！

ちょっ
ちょっと
奥の席っ

やだっ
ヤバイって

警察っ
警察呼んだ
方がいいよっ

※忍ちゃんイヤー発動中

しょーがない
騒ぎになるのも
面倒じゃしな

パチン

ギュッ
ギュッ
ギュッ

ま。
この程度の
結界で十分
じゃろ。

……

までまで。がっつくな。
折角じゃ儂がもっと萌えるシチュにしてやるわ
えっえ？何それ？
ねえーねえーっ
忍のおまんこにそのおっきいの入れてくれるー？
こういうのは『浮気』とか『不倫』ということになるのかのお・・・
我が主様よ。
お兄ちゃん♡

あっ…ありがとう

ありがとう忍ちゃんっ♡

あっ…

あっ…あー…入ったぁおまんこに入っちゃったよっ

……

忍ちゃんの小さなおまんこに…

ちゃんと入ったよっ

きつくて大変だったけどちゃんと入ったよぉおーっ

あーっキツくてせまくって…

全然根元まで入んないよ

じゃあ動かすよー

……

はぁっ
んはぁっ
はぁぁっ
んんあっ
ぐちゅ
ぬちゅ
ふぅぐぅ
ん…ぐぅ
う…ぐぅ
まったく…
男という
生き物は
本当にがさつで
乱暴じゃのう…
ぬちゅ

こやつ分かっておるのかのー。
出るっ
出すよっ忍ちゃん
出すよーっ
今、盛んに腰を振っておる自分の腹の下にいるのが
んぁーっ
ぁっぁー
ぁぁーっ
ふぁーっ
自分の体重の四半分以下の幼女ということを・・・

ふーやれやれ
しかし儂が
本物の幼女
だったなら・・・

んあ・・・

あー
忍ちゃんっ

最高だった
よーっ

確実に
窒息死して
おるわい

ぐちゃ

ぐっ

はう・・・

おう・・・

むぐぐ・・・

おっ・・・

んぅ・・・

あ。
未熟な性器に
強制挿入された
時点でもう
アウトかのう

まあ折角じゃ
もう少し
つきおうて
やるかの

んあっ

ああー

おっおおー

ふーっ。やっと三回目終了か。

うわっ何じゃこの量はどんだけ溜めこんでたんじゃこやつ。

あー忍ちゃんのおかげでほらこんなにいっぱい出ちゃったよぉ

あー…忍ちゃんっ

まだ平気っ？

ボクまだ全然満足できないよー

ふー…さすがにこりゃ一人では身が保たんなぁ

……

ポタ
ポタ
ポタ
ポタ
どーしたの？忍ちゃんっ
少し疲れちゃったかなぁ？
……
ほらぁ見てごらんっ
忍ちゃんの小っちゃいまんこ…
……
うわっなんじゃこいつのチンコ
あんだけ出してまだ全然固いまんまじゃぞ
ボクのがちゃんと入っていっぱいに拡がってるよー
こいつ。本当に正真正銘の真性じゃなぁ。
ほらほら見てっ
こうするとおっぱいぷくっとしたみたいだよー
……

どれどれー？
見せて見せてー♡
だきっ♡
!?
ギュッ
えっ？あっぁ・・・!?
ええっ？
忍ちゃん・・・？
うんっそーだよ私も忍っ♡
えっ・・・あ・・・いやでっでも・・・
ほらほらーっ
お兄ちゃんの背中に私のおっぱいとおまんこがむにゅーっ♡
!!!
もー細かいこと気にしない気にしないーっ
え・・・うあぅ・・・
そうそういっしょに気持ちいいことしよっ
お兄ちゃん

んっ
ちゅぱっ
んんっ
ちゅぱっ
んむぅっ
ぷぱぁ
んぅーっ
どうーっ？
お兄ちゃんっ
幼女二人に
チンチンを
なめなめして
もらうのーっ♡
キモチイイ
でしょーっ♡
レロォ…
ぺロッ…
うっ…うん
レロッ
すごい…
幸せだよぉっ♡
続いてー
大サービスっ♡
幼女二人の
パイズリ
攻撃ーっ♡
ぐぐぅ
ぐっ
!!!

あぁ～っ
幸せだぁ
もう
夢みたい
だよぉ
金髪幼女が
裸でボクに
懐いてる
なんて～
しあわせだぁ
もう死んでも
いいよぉー
も～
お兄ちゃん
大袈裟なん
だからーっ
そうそうっ
ほらっ
お兄ちゃん
早くーっ
お兄ちゃんの
チンチンまた
忍のおまんこに
入れてー♡
私もーっ♡

まいったのぉー こやつ…
あー 忍ちゃんっ
大丈夫っ？ ぼくまだ 全然いけるよっ
……
おまんこツライ？ じゃあ今度は お尻の穴で しようか？ ね？
性欲底なし じゃな…
まあ。 これも一興 じゃな。
さて。 仕方ないの もう一人…
チュポッ

『ちがうのじゃ。
聞いてくれお前様よ。
そんな一方的に感情をぶつける前にまずは
まずは儂の話を耳に入れてからでも遅くはあるまい。』

『ふむ。なるほど。
僕は慈悲深くまた理性的にコトを進めようとする努力は
常日頃怠らないことを旨としている。
聞こうじゃないか。お前の言い分を。』

『だからな、お前様よ。
コレじゃ。このミスドポイントカード。
儂が肌身離さず持っておるこのポイントカード。
ミスドに行く度にコツコツと加算をし続けてきた
このポイントカードがじゃ。
こともあろうに来月の30日でサービスが終了してしまう
と言うではないか。
儂は耳を疑った。店員の娘から渡された告知のチラシを
受け取った時、儂はヒザから崩れ落ちたわ。
あまりといえばあまりな話じゃ。

いや儂はミスドへの愛はこれっぽっちも
揺らいではおらんしこれからも変わらんと自負しておる。
今回の決定も経営上のスクラップアンドビルドを計ろうと
いう止むにやまれずなものであり、組織上層部の決断も苦
渋に満ちたモノと推し量っておる。
だが、そうとは申せども長い間このカードに刻まれた
ポイントには儂のミスドへの愛と共にその時々の思い出が
詰まっておるじゃ。

それをサービス終了と共に全て無に帰そうというのは
あまりと言えばあまりに酷な話とは思わんか。

『しかし一度決定の告知がされてしまった以上
儂の力をもってしてもそれを引っ繰り返すことは
あまりにも難しい。
いや、やろうと思えばそれは恐らく可能じゃろう。
大阪のミスド本社の取締役会に乗り込んで
儂が土下座をすれば済む事じゃ。
（すまねーよ）
もしくはそうじゃな。
取締役ご一同の脳に手を突っ込んでちょちょいとやれば
まあ、なんとかなるとは思うがの。
（ならねーよ。ていうかすんな）
しかし儂もそんな横車を押すような愚行はしとうない。
儂もミスド愛を貫こうと心に決めた以上
決定に逆らうのは本意ではない。
（そんなもんあったのかよ）
そうと決まればお前様よ
ポイントサービス終了までの残り少ない時間を
名残惜しもう、精一杯分かち合おうという
儂の心情は察してあまりあるであろう。

ちなみにあと30ポイント程で
カラフルタンブラーとの交換が可能になるのじゃが
このような事情を理解した上はお前様も
きっとポイント加算に協力してくれると
儂は信じておる。

どうじゃ。分かってくれたかの？』

『知らねーよ。そんなこと（怒）』

完

真宵ちゃんで一本作りたいなぁ。
大雑把なネームは切ってあるんだけど。

本来はこの忍本さっさと上げて
やるつもりだったんだが。

なんか今年一年は特に酷かったな。

『そーいや忍。おまえボクの影から出て
そんな勝手にウロウロとか出来るのかよ。
ペアリングがどうとか』

『あぁ。別に可能じゃよ。もちろんまあ、
怪異としての諸々の力というか
能力は制限はされるがの。
そこらうろついとる小児性愛者に拉致監禁されそうに
なったりする危機とか、その程度なら自力でどうにか
できるわい。』

『いや、そんな性的思考蔑視発言はいかがなものかと
思うぞ。ボクとしては。』

『あー。あの暴力陰陽師やゾンビ式神と出くわすと
ちと、面倒じゃがな。』

『あー。なるほど。』

『そんなわけでお前様よ。今後ミスタードーナツ忍店へは
お前様が同伴と言うということでよいかの。』

『いいわけねぇだろ。』

西尾維新先生の作品に触れると
自分がいかに物書きとして凡庸かということを
思い知らされます。
決まりきった定石に縛られて
自由な発想を知らず知らずのうちに
押さえ込んでいるのでは…というか
そんな劣等感に悶えつつも
先の読めない面白さについつい
ヤラレテしまうのです。

とにかく先が読めない。
一般的な作品は大体は物語の筋というのが
読めるんですが西尾作品に関しては
それができない。

一般作品を車に例えます。
車ならば道に沿って走ってれば
途中の案内板とかナビに従っていけば
そんなに迷うことはないのでは。

西尾作品はナビのない航空機のようです。
一度離陸したら何処に連れて行かれるか
見当がつかない。

空港が見えてきてそこに降りるかと思えば
また上昇してということがあったり
そもそもきちんと着陸する気があるのかどうか。
絶海の孤島に不時着なんて可能性さえある。

こんなジェットコースター気分が味わえるのも
西尾作品ならでは。

化物語もセカンドシーズンまできましたか。
どうやら現在進行形の原作も全部アニメ化して
くれそうですね。
ありがたい限り。

こうなってくると現在暦物語まで読了してますが
買って本棚にある終物語(上)に手を伸ばして
いいものかどうか悩みます。

原作読まずにアニメが初めましての人たちの
幸せさを考えると羨ましくて身もだえしてしまう。

傾物語の初版発売は2010年の12月。
三年待たされましたよ。

花物語は時系列的に後日談っぽい流れなので
アニメ化するかどうか怪しいですが
憑物語以降のファイナルシーズンがいつになるやら。

まあ気長に待とうか。
そういえば傷物語ってどうなってんだろか。

西尾維新先生の作品に出会ったのは
もうかれこれ10年近く前だと思います。

初めて手に取ったのが
『君とぼくの壊れた世界』
病院坂黒猫にゾッコンでした。

その後まあ普通に
君ぼくシリーズから
戯言シリーズに手を伸ばし
もちろん化物語も拝読させて頂き
リスカちゃん、刀語等も経て
化物語のアニメ化も迎えたという
至極まっとうな維新ファンの
冴樹ではありますが

『絶対アニメ化なんて無理だよな』

維新作品のファンながら
ずっと思っておりました。

西尾先生特有の
言葉遊びというか日本語遊びが
映像化に向かないだろうと
勝手に思いこんでおりまして
アニメ化の報に接したときも
大丈夫かいな？的な感情が
強かったのを覚えております。

まあご承知の通り全くの杞憂に
終わることになりましたが。

いままで同人誌のお題として
維新作品を扱ったのは
当誌が初めてです。

難しいんですよ。

微妙で繊細な世界観を
崩したくないという怖さもありますし。

まあ結局はいつも通り
勝手なエピソード捏造しての
作品にはなりましたけど。

そういえば終物語まだ読んでないなぁ。
買ってはいるんですけど
少し読むのが怖いみたいな。

この作業終えたらゆっくり読もうかと
思っております。

それでは。

2013年冬
メリクリ
冴樹高雄

発行　ろり絵号
編集・構成　冴樹高雄
発行日　2013年12月31日
印刷　プリントマウス様

kibatora@gmail.com
http://kibatora.web.fc2.com/

SCANNED BY CAPTCARISMA